

扫码付款 のことなど

キャッシュレス

今どき外出するのに財布なんて持ち歩かない、と中国の友人が話すのを聞いてはいましたが、実はちょっと信じられずにいました。でも今回、その様子をこの目で見て来ました。

朝、ちょっと出かける用事があるときは、表に出てタクシーを拾う必要はありません。スマホの配車アプリでタクシーを呼びます。自分の居場所と目的地を入力して空車が見つかったら、アプリでその車の現在位置を確認して、そろそろ着くなあという頃、外へ出て待っていればOK。もちろん、支払いもスマホです。

もしバスを利用するなら、やはりスマホのアプリで自分がどのバスに乗ればいいのか、そのバスがあとどのくらいでバス停に着くのか調べられます。料金は、現金でも、日本のSuicaのようなICカードでも支払いができ、ここ数年は“支付宝(アリペイ Alipay)”も使えるようになりました(バックナンバー第15回「アリペイのことなど」をご参考に)。

用事が済んでランチを食べて、支払いとなれば、誰もが財布、じゃなくてスマホを出してモバイル決済です。ポイントも付きます。現在使われている主なモバイル決済は、先ほど紹介した“支付宝(アリペイ)”と“微信支付(ウィーチャットペイ WeChatPay)”。市場でちょっと食材を買うにも、売り場に掲げられた“支付宝”や“微信支付”のQRコードをスマホで“嘀 di(ピッ)”と読み取れば支払いができます。“钱过去了啊,看一下啊(支払い完了で〜す!)”と声をかけると、お店の人は特に確認もせずに“哦(おっ!)”と応えて終わり、となります。

レストラン、商店、市場だけでなく、団地内の“早点(朝食)”や道ばたで売ってる“烤红薯(焼き芋)”の屋台も、QRコードが掲げてあれば、スマホで支払えます。友人の話では、「あのQRコードのカードはね、決済会社がお店に送っているのよ。ユーザーを増やすために」とのこと。

実際にこのモバイル決済が広まって、確かに便利な方法だと多くの人が言います。財布を持ち歩く必要がないのはもちろん、お店の人がお金を直接触らないで済むというのは効率的です。特に軽食を売る店などは、以前は食品を扱うときは手袋をし、お金を扱うときは外して、あるいは紙挟みのようなものでお釣りを挟んで渡したりしてました。

日本人には、便利な反面、あまりにもスマホに頼りすぎでは、とか、ちょっと危険なんじゃないの?と思う人もいるかもしれませんね。中国でも年配の人は現金で支払う人が多いし、スマホ自体を持たない人もいます。スマホ上で多くのお金を扱うのに不安を感じる人もいますね。でも、若い年齢層を中心にスマホの扱いに慣れた人は、利便性とリスクを秤に掛けて、やはりスマホとモバイル決済の便利さを手放せないのです。日本でもSuicaやクレジットカードが普及し、おサイフケータイも増えているでしょう?

ただ、この決済方法は中国国内に銀行口座がないとできないので、外国人にとっては面倒なのではないかと考える人がいるかも知れません。でも、数日間現金支払いで過ごしましたが、何か不都合だったり面倒だったりすることはありませんでした。特に心配しなくても大丈夫だと思いますよ!

さて、こんなに便利なキャッシュレス社会ですが、困っている人もいますみたいです……。



手机支付₁ 让贼都失业了。“买烧饼₂ 都扫码₃ 上哪儿摸现金?”

民警₄ 在集市上抓获一名正在扒窃₅ 的嫌疑人, 该男子的盗窃生涯已有近20年。

他说现在扒窃这活儿不好干, 坐车吃饭都是手机支付, 没啥₆ 现金可偷……。

- 1 手机支付 shǒujīzhīfù: モバイル決済
- 2 烧饼 shāobǐng: シャオピン。小麦粉を丸形に焼いたもので、塩、ゴマ、ネギ等が入っている
- 3 扫码 sāomǎ: コードを読み込むこと。スキャンすること
- 4 民警 mínjǐng: “人民警察”の略
- 5 扒窃 páqiè: スリ。万引き
- 6 啥 shá: “什么”の方言。何

*

モバイル決済でスリはみんな失業。
「焼餅(シャオピン)一つ買ってもスマホで『ピッ』なんだから、現金なんてどこにもないよ。」

警官が市場でスリを現行犯逮捕すると、その男、20年近いキャリアの持ち主。彼の供述は次の通り。このご時世、スリ家業もやりにくくなったもんだ。なんせ、バスに乗るのも飯を食うのもスマホで済むんだから、現金なんてお目にかかれなないんだよ。